



夏休み 7月中のスタートダッシュが大切

明日から夏休みです。昨年のように夏休みの短縮という事態は避けられましたが、今年も新型コロナウイルス感染症対策の必要な状況は変わっていません。遠くに旅行しにくい、東京などに住む親類の人と会えないなどの声も聞こえてきますが、嘆（なげ）いても、不満を言っても何も変わりません。不自由や制約がある中で何ができるか考えましょう。夏休みは7月中のスタートダッシュが大切です。提出物は7月に片付けて、8月からは好きなことをする！くらいの勢いで走り出してください。

本を読もう！みなさんの10年後以降のために

みなさんが社会の中心となって活躍することになる2030年頃の社会は、これまでのように、「こんな社会になる」と予測ができないと言われています。今後10年～20年程度で、車の自動運転ができるようになります。人間がしている作業など、今ある仕事の半数が、人工知能やロボットなどにより自動化されるでしょう。このような変化により、65%の人は、今は存在していない職業に就くという予測があります。

将来みなさんに求められるようになる力は、さまざまな変化を前向きに受け止め、自分なりに考えたり、他の人と一緒に考えたりしながら、協力して新しいアイデアを出していく力だと言われています。つまり、自分の考えをもって、それを他の人と議論しながら、新しいことを生み出していく力を身に付けていく必要があります。このような力を身に付けていくためには読書が効果的です。

夏休みは、まとまった量の読書をするのに最適な時期です。各分野で一流になった人が共通に語るの、ある時期に集中してその分野の本を片っ端から読みあさったということです。例えば世界一の企業を目指しているソフトバンクの創業者、孫正義（そん まさよし）さんは、病気で入院中に読書に励み、歴史物、コンピュータ関連書などを手当たりしだいに4000冊読んだと言われています。その圧倒的な読書量が、現在の驚異的な成功につながったようです。世界一や日本一を目指さないまでも、一つの分野の本を100冊読むと一人前に、300冊読むとその分野の専門家になれると言われています。

興味・関心のある分野の本を集中して読んでみましょう。みなさんの人生を変える本と出会うかもしれません。ネットからも断片的な情報を得ることはできますが、情報をきちんと積み重ねて整理し、自分のものとして身に付けて使いこなすためには、読書が絶対に必要です。

何を讀んだらよいかかわからない人は、図書館でお薦めの本を手にとってみたり、次の「香川の子もたちに読んでほしい100冊（中学生からの40冊）」を参考にしたりしてください。

香川の子もたちに読んでほしい100冊（中学生からの40冊） 県教育委員会

阿房列車（内田百閒）／アラスカの詩（星野道夫）／伊豆の踊子（川端康成）／宇宙からの帰還（立花 隆）／ABC 殺人事件（アガサ・クリスティー）／科学の考え方・学び方（池内 了）／木に学べ 一法隆寺・薬師寺の美（西岡常一）／蜘蛛の糸・杜子春（芥川龍之介）／高野聖（泉 鏡花）／坂の上の雲（司馬遼太郎）／砂糖の世界史（川北 稔）／三四郎（夏目漱石）／詞華断章（竹西寛子）／自分の感受性くらい（茨木のり子）／スローカーブを、もう一球（山際淳司）／青春デンデケデケデケ（芦原すなお）／聖書物語（山形孝夫）／そうだったのか！現代史（池上 彰）／ゾウの時間ネズミの時間ーサイズの生物学（本川達雄）／ダレン・シャン ー奇怪なサーカスー（ダレン・シャン）／探検！ことばの世界（大津由紀雄）／父の詫び状（向田邦子）／天平の蠶（井上 靖）／藤十郎の恋・恩讐の彼方に（菊池 寛）／どくとるマンボウ青春記（北 杜夫）／なまくら（吉橋通夫）／半自叙伝・無名作家の日記（菊池 寛）／病牀六尺（正岡子規）／平家物語を読むー古典文学の世界ー（永積安明）／まちがったっていいじゃないか（森 毅）／蜜柑（芥川龍之介）／三十一文字のパレット（俵 万智）／名人伝（中島 敦）／モンテ・クリスト伯（デュマ）／八日目の蝉（角田光代）／レポートの組み立て方（木下是雄）／老人と海（ヘミングウェイ）／論語物語（下村湖人）／香川の歴史ものがたり（香川県中学校社会科研究会）